

9月8日／21日

至聖なる我が女宰生神女永貞童女マリヤの誕生祭

聖体礼儀

真福詞は第二調の規程の第三歌頌四句に。又第八調の規程の第六歌頌四句に。

聖入の後に祭日の讃詞。

讃詞、第四調 (案譜下)

しょうしんどうていじょ なんじ うまれ ぜんせ かい よろこび し けだしなんじ ぎ ひ わ かみ かがや
生神童貞女よ、爾の誕生は全世界に歡喜を知らせたり、蓋爾より義の日たるハリストス我が神は輝け
り。かれ のろい と しゆくふく あた し ほろぼ われら えいえん いのち たま
り。彼は詛を解きて祝福を與へ、死を滅して我等に永遠の生命を賜へり。

光栄、今も、小讃詞、第四調。

至浄なる者よ、爾の聖なる誕生に因りてイオアキム及びアンナは子なき辱、アダム及びエワは死の朽壞を免れたり。定罪より釋かれし爾の民も之を祭りて、爾によぶ、胎の荒れたる者は生神女、我等の生命の養育者を生む。

トロハリ



生神 童貞 女 よ 爾の誕生は全世界に歡喜を 知らせ たり
蓋、爾より義の日たるハリストス 我がかみは かが やけり
彼は 詛いを解きて 祝福を あた え
死を 滅 ぼ し て 我等に永遠のいのちを た ま えり
光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も 世々に アミン

コンダク

至浄 なるも の よ 爾の聖なる 誕生に よ りて



【ポロキメン】第三調。

我が霊は主を崇め、我が神[°]は神我が救主を悦べり。句、「蓋其婢の卑しきを顧みたり」。



使徒の誦読はフィリッピ書 240 端。

兄弟よ、爾等はハリストスイススの意を以て意とすべし。彼は神の像にして、神と匹しくなることを
 僭ふとせざりき、然れども己を虚しくして、僕の貌を受け、人と同じき者と為りて、外形に於て人の如
 くなり、己を卑くして、死に至るまで順ひ、且十字架の死に至れり。故に神も彼を無上に高くして、彼
 に凡の名に超ゆる名を賜へり、凡そ天に在り、地に在り、及び地の下に在る者の膝は、イイススの名
 の前に屈み、且凡の舌は、イイススハリストスが主たるを承け認めて、光荣を神父に帰せん為なり。

「アリルイヤ」、第八調、

女よ、之を聴き、之を觀、爾の耳を傾けよ。句、民中の富める者は爾の顔を拝まん。



【福音經の誦読】ルカ 54 端。

彼の時彼等が行ける時、*イイスス一の村に入りしに、或婦マルファと名づくる者、彼を其家に迎へ

たり。其姉妹にマリヤと名づくる者あり、イイススの足下に坐して、其言を聴けり。マルファは供事の多きに因りて、心を煩はし、就きて曰へり、主よ、我が姉妹我一人を遺して供事せしむるを爾意と為さざるか、之に命じて、我を助けしめよ。イイスス彼に答へて曰へり、マルファよ、マルファよ、爾は多くの事を慮りて心を勞せり、然れども需むる所は一のみ。マリヤは善き分を択びたり、是は彼より奪ふ可からず。

此を言ふ時、一の婦民の中より聲を揚げて、彼に謂へり、爾を孕みし腹と爾が哺ひし乳とは福なり。彼は曰へり、然り、神の言を聴きて之を守る者は福なり。

「常に福にして」に代へて「イルモス」、

常に福に代えて

我がたましいよ 神の母の至栄なる 誕生を

讃めあげよ 日よりさきに ひかり ^{ながや} 輝きしかみ

肉体にて 我らに ^{のぞ} 臨みし者を

貞潔の腹より 言いがたく生みし 讃美たる

至ときよき 生 神女よ 我等 なんじを

あーがーめ 讃む

領聖詞、我救の爵を受けて、主の名をよばん。「アリルイヤ」。(115:4) 三次。

選択1 ズナメニイ



選択2 S・グラゴレフ神父のメロディから



【注】知るべし、至聖生神女の誕生祭若し主日に當らば、其の奉事式は之を至聖生神女の就寝祭 797 頁に看よ。唯共頌には「モイセイは杖を以て十字架の縦」の「イルモス」を歌ふ。